

保険薬局におけるがん専門薬剤師による外来がん薬物治療患者応対についての患者アンケート調査

下川 友香理 そうごう薬局 天神中央店

【目的】 当薬局は2012年より薬剤師担当制を導入し抗がん薬に関する専門的知識を持つ薬剤師（以下専門薬剤師）による継続した応対を行っている。また、2015年からは病薬連携で共有した情報を活用し、標準的・効率的な応対の実施を目的とした「外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス」を作成し、運用している。今回は専門薬剤師による外来がん薬物治療患者への応対について、患者視点からの評価を行うためアンケートを行った。

【方法】 患者へのアンケートは当薬局に継続的に来局している外来がん薬物治療患者を対象とし、投薬時に直接配布、郵送にて回収した。24項目の質問を、無記名自記方式で行い、期間は2017年10月～12月とした。

【結果】 アンケート回答率は60%（51/85名）。薬剤師の応対で役にたったこととして、抗がん薬については「併用薬との飲み合わせの確認」（34名）「服用時間の確認」（27名）、副作用については「よく起こる副作用を教えてくれる」（36名）「毎回の確認があるため予防する意識につながる」（26名）との回答が多かった。薬局で経験したことについては「病院で聞きそびれた事を薬局で聞くことができた」（29名）「病院薬剤師の説明で覚えることができなかったことを再度教えてもらい理解が深まった」（24名）「病院薬剤師と薬局薬剤師で指導内容が統一されていて安心した」（21名）などの回答が多かった。かかりつけ薬剤師については48名がいると答え、同意理由は「いつも同じ薬剤師がいい」（32名）が多く、「かかりつけ薬剤師がいることで、治療の継続に安心感を持つことができる」と100%の人が答えた。治療や薬に対する不安について、「薬局薬剤師に相談してよかった」と90%の人が答えた。

【考察】 病院において指導・説明を受けている患者であっても、薬局において専門薬剤師が、連携で得た情報を用い、繰り返し指導し、副作用の確認をすることを、患者は役に立つと感じていた。また、かかりつけ専門薬剤師による継続的なケアによって、治療の継続に安心感を持つことができ、さらに、治療に対する不安を病院以外の場所でも相談できることが患者満足に繋がっていることがわかった。以上により、当薬局における専門薬剤師による応対は患者の視点からも、外来がん薬物治療患者の医療に貢献できていることが示唆された。

【キーワード】 外来がん薬物治療患者 保険薬局クリニカルパス 専門薬剤師